

トマトの灰色かび病の発生が多い ～果実被害を防ぐため、防除対策に努めましょう～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

トマトの巡回調査における灰色かび病の発病株率は8月中旬に急増し、32.0%（平年10.0%）で高かった（図－1）。

8月22日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の降水量は多いと予報されている。

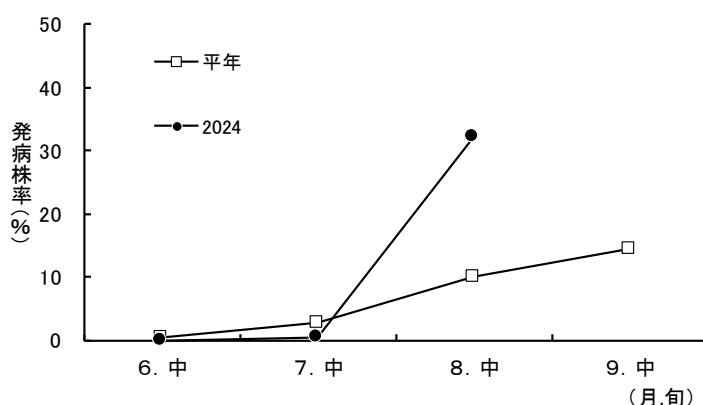
また、今後は、降雨により過湿になりやすく、晴れていても昼夜の気温差により、株に結露が生じやすくなる。

以上のことから、灰色かび病（図－2、3）の発生に好適な条件となるため、果実被害の拡大が懸念される。

2. 防除対策

- 1）本病は多湿時に発生しやすいため、早めの換気に努める。
- 2）発病した部位は直ちに除去し、ほ場外で処分する。葉先枯れなどの枯死した部位も発病しやすいため、同様に処分する。
- 3）ジャストミート顆粒水和剤、ファンベル顆粒水和剤などの治療効果がある薬剤を散布する（表－1）。
- 4）耐性菌の出現を回避するため、RACコードが1、2、11、12の薬剤は連用しない。特に、RACコードが1、2の薬剤は県内で耐性菌が確認されているので、薬剤の選定に注意する。

3. 資料



図－1 巡回調査における灰色かび病の発病株率の推移



図－２ 葉の被害



図－３ 果実の被害（左：軟化腐敗、右：ゴーストスポット）

表－１ 灰色かび病の防除薬剤

RAC コード	農薬名	希釈倍数	使用回数	各成分の 総使用回数
10・1	ゲッター水和剤	1,000～1,500倍	5回以内	アイ
10・2	スミブレンド水和剤	2,000倍	3回以内	イオ
17・12	ジャストミート顆粒水和剤	2,000倍	3回以内	ウエ
12	セイビアーフロアブル20	1,000～1,500倍	3回以内	ウ
M7・17	ダイマジン	1,500倍	3回以内	エキ
11・M7	ファンベル顆粒水和剤	1,000倍	3回以内	キク
9	フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	4回以内	4
2	ロブラール500アクア	1,000～1,500倍	3回以内	カ
2	ロブラール水和剤	1,000～1,500倍	3回以内	カ

ア:チオファネートメチル(6回以内(種子への処理は1回以内、は種後は5回以内))

イ:ジエトフェンカルブ(6回以内)

ウ:フルジオキシニル(4回以内(種子への処理は1回以内、散布は3回以内))

エ:フェンヘキサミド(3回以内) オ:プロシミドン(3回以内)

カ:イプロジオン(4回以内(種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)) キ:イミノクタジン(3回以内)

ク:ピリベンカルブ(3回以内)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>